



2024年3月期 通期決算および 中期経営計画説明資料

2024年5月21日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード:2060

説明項目

2024年3月期 通期決算

2025年3月期 業績予想

長期ビジョン

中期経営計画

企業価値向上への取り組み



2024年3月期 通期決算

2025年3月期 業績予想

長期ビジョン

中期経営計画

企業価値向上への取り組み

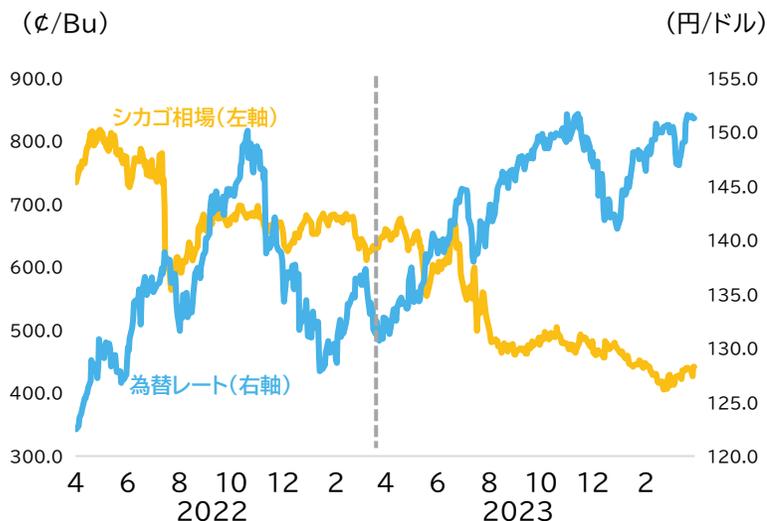


事業環境①

1. 輸入原料の価格動向

畜産飼料原料の約50%をとうもろこしが、水産飼料原料の約40%を魚粉が占める

とうもろこしシカゴ相場と為替レート



為替レート: **前期比 6.7%円安**

とうもろこしシカゴ相場: **前期比 26.2%低下**

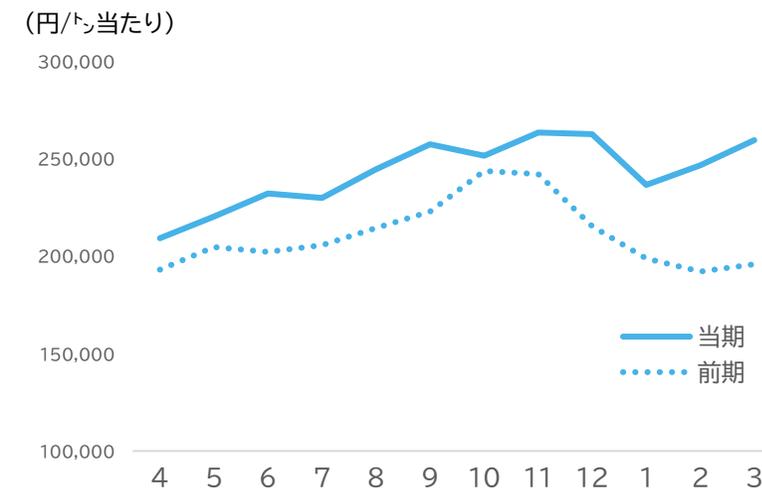
とうもろこしの輸入価格



出所:財務省貿易統計 品別国別表

とうもろこし輸入価格: **前期比15.6%低下**

魚粉の輸入価格



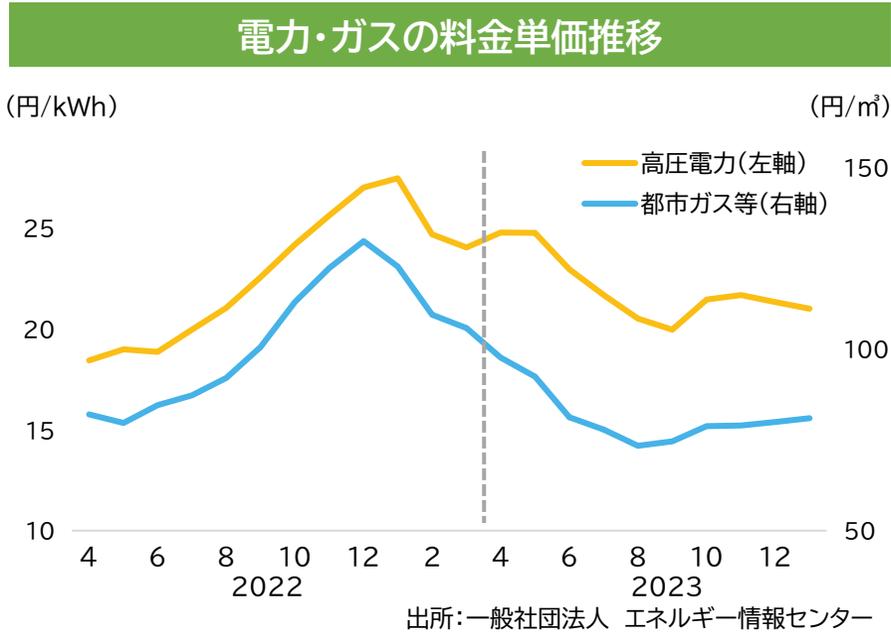
出所:財務省貿易統計 品別国別表

魚粉輸入価格: **前期比 14.3%上昇**

- 為替レートは一時的に円高に振れたものの、日米金利差等が意識され円安傾向
- とうもろこしシカゴ相場は市場予測を上回る安定した生産見通しにより軟化傾向
- とうもろこし輸入価格は前期を大きく下回る

- 日米金利差等により円安が進行
- 主産国ペルーでの不漁(エルニーニョ現象)
- 魚粉輸入価格は前期を大きく上回る

2. エネルギーコストの価格動向

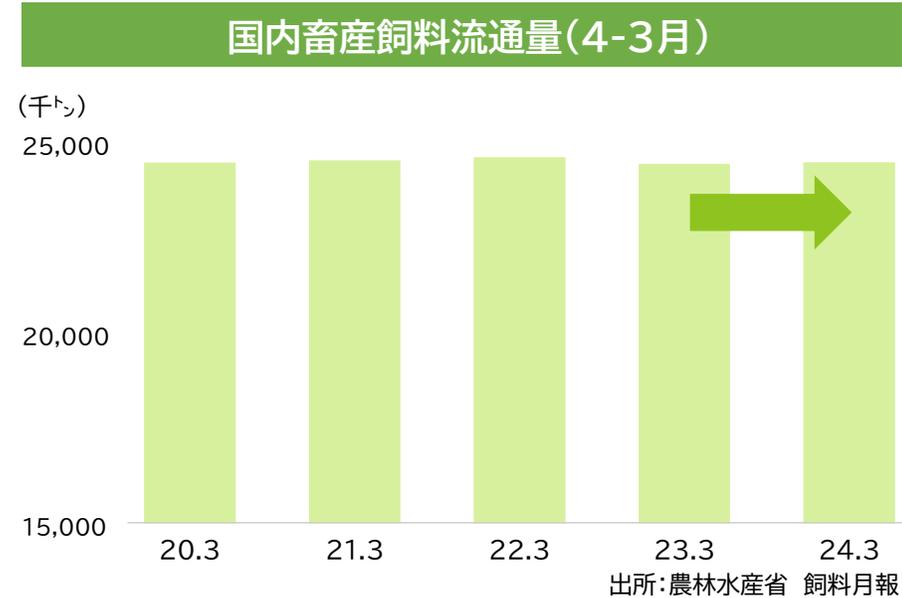


電力料金単価: **前年比 1.8%低下**

ガス料金単価: **前年比 19.5%低下**

- 電力・ガス料金単価は政府の価格激変緩和対策事業の一部継続もあり、前年を下回る

3. 畜産飼料流通量の動向



畜産飼料流通量は概ね**横ばい**で推移

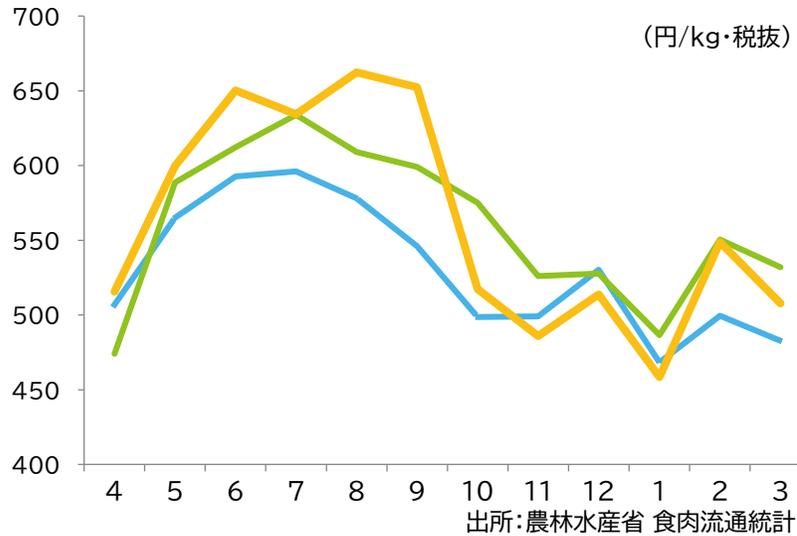
※2024年3月実績は未公表のため過去3年の平均値で試算

- 前年に猛威を振るった鳥インフルエンザの影響から上半期は採卵鶏用で減少するも、下半期に入り回復し、全体では概ね横ばいで推移

4. 畜産物相場の動向

食品事業は豚肉と鶏卵販売が主力

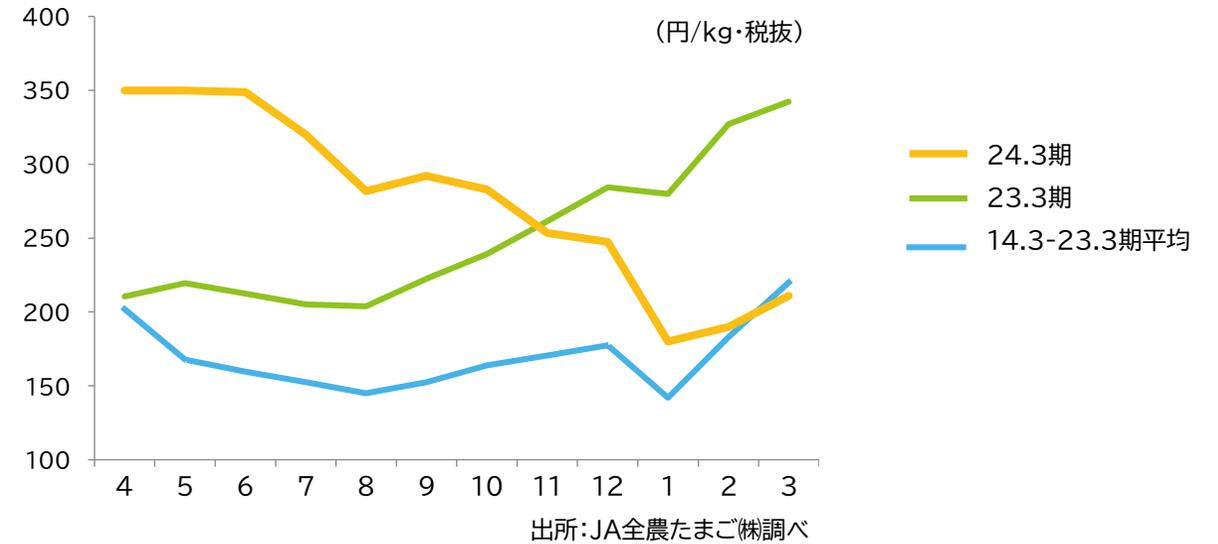
豚枝肉卸売価格(3市場・上物)



豚枝肉卸売価格: **前期比 0.5% 上昇**

- 夏期の記録的猛暑により出荷頭数が減少、前年を上回る
- 秋以降は気温の低下により出荷頭数が回復し、通年では概ね横ばい

鶏卵卸売価格(全農:東京M)

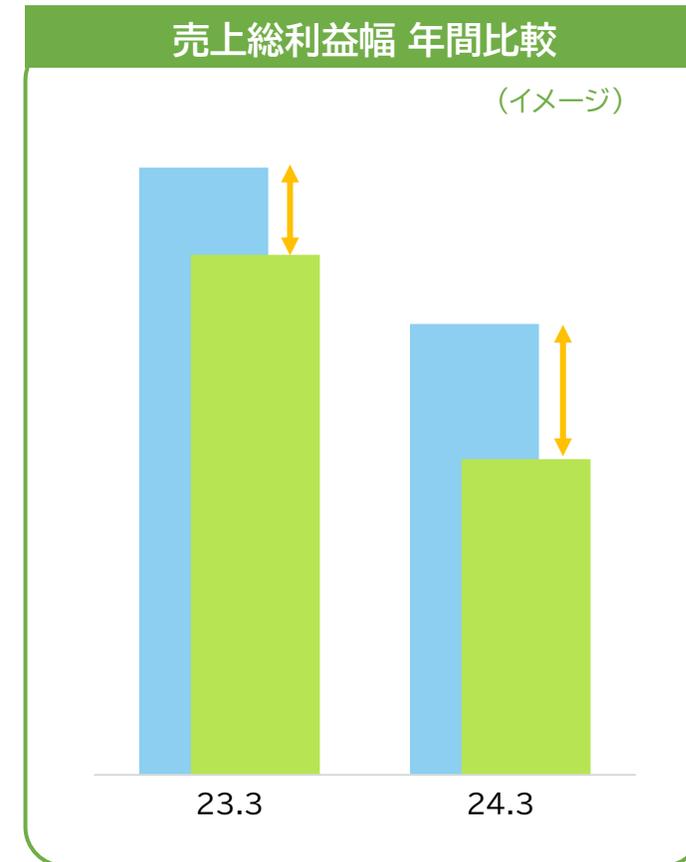
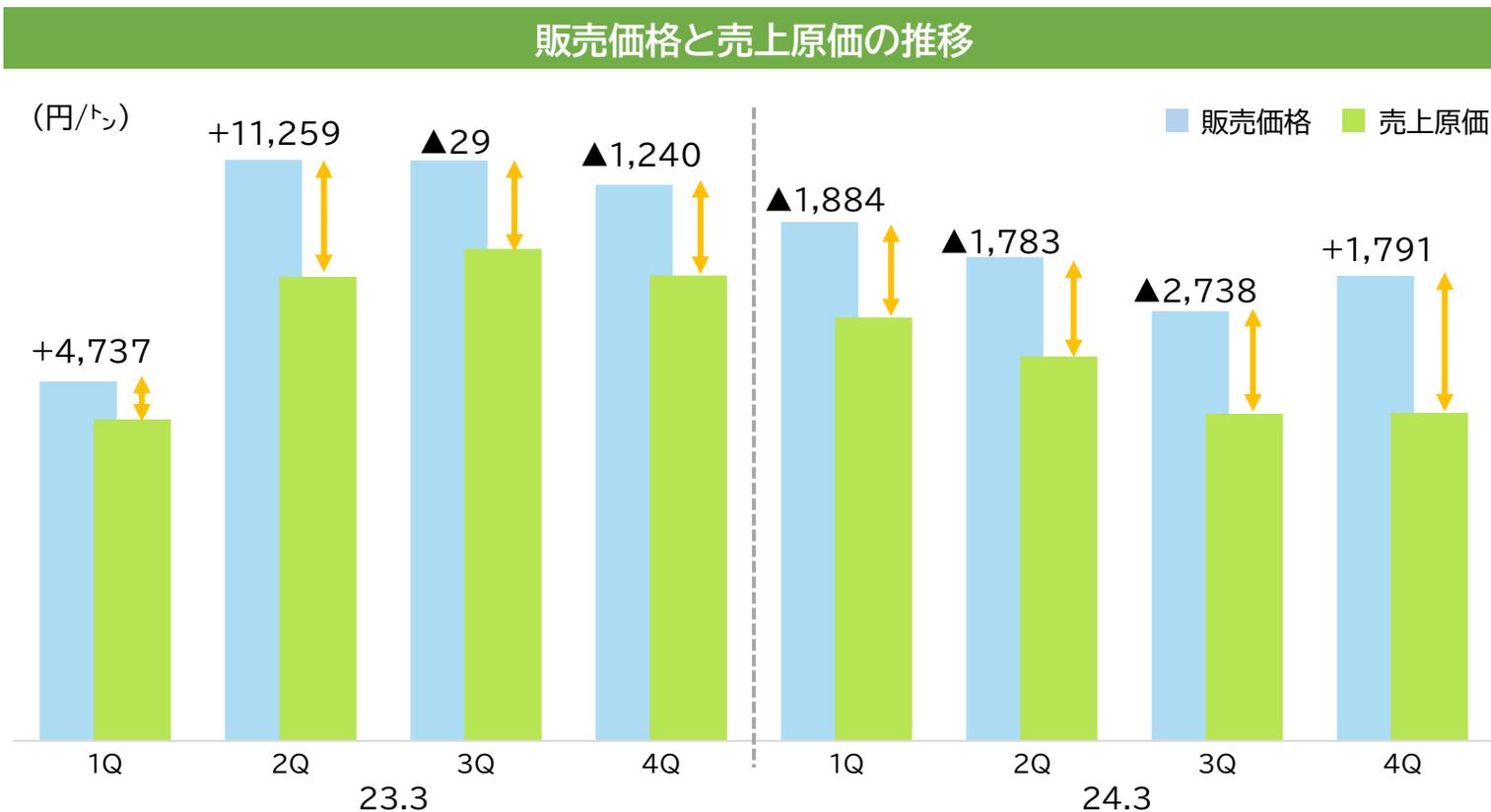


鶏卵卸売価格: **前期比 9.9% 上昇**

- 上半期は鳥インフルエンザの影響から出荷量が減少、前年を大きく上回る
- 11月以降は飼養羽数の回復に伴い生産量も増加、前年を大きく下回る

畜産飼料の販売価格と売上原価推移

販売価格は前第2四半期をピークに連続で低下し、当第4四半期に6期ぶりに上昇
 売上総利益幅は、前期より改善



売上原価における原材料費率は8割強、原材料の5割を輸入とうもろこしが占める
 販売価格は原料相場・為替・海上運賃を踏まえて、四半期毎に改定を行う

2024年3月期 決算概要

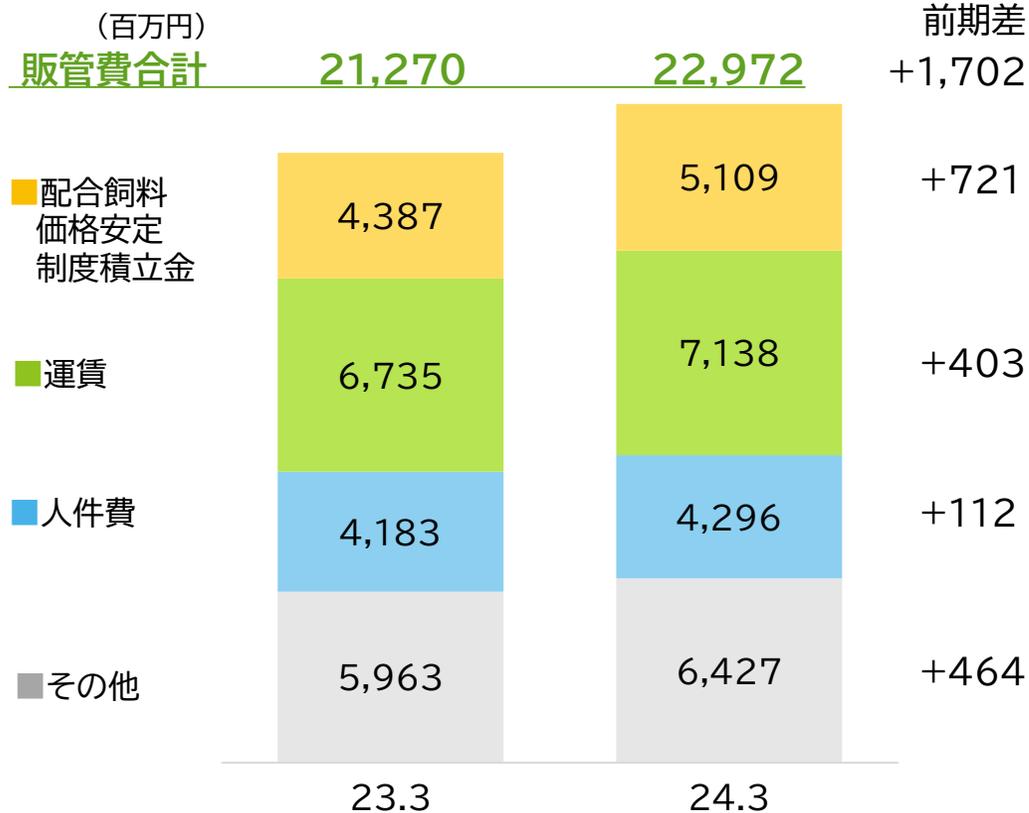
飼料事業の販売数量増加や水産飼料の販売価格上昇等により増収
畜産飼料の原材料価格低下等による売上原価の減少により増益

(百万円)

	2023.3期	2024.3期		
			増減額	前期比
売上高	307,911	313,875	+5,963	+1.9%
売上原価	285,218	283,153	▲2,064	▲0.7%
売上総利益	22,693	30,721	+8,028	+35.4%
販管費	21,270	22,972	+1,702	+8.0%
営業利益	1,422	7,748	+6,325	5.4倍
経常利益	1,711	7,737	+6,026	4.5倍
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,030	5,084	+4,053	4.9倍

販管費

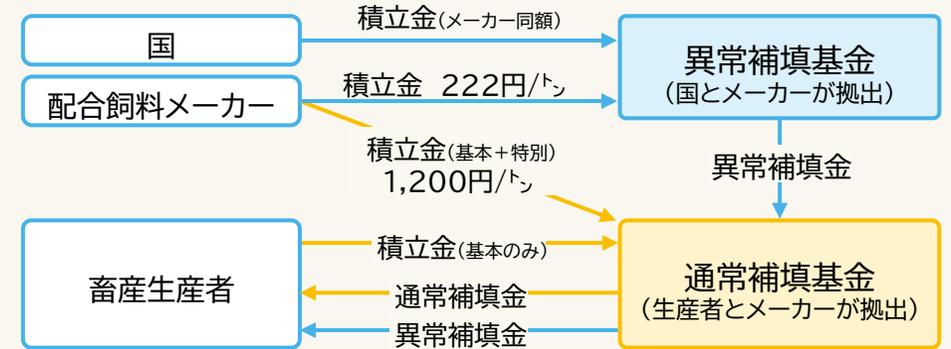
- 配合飼料価格安定制度の積立金が増加
- 運賃は数量増加や単価上昇により増加
- 人件費は給与ベースアップで増加
- その他は営業活動費やシステム関連費が増加



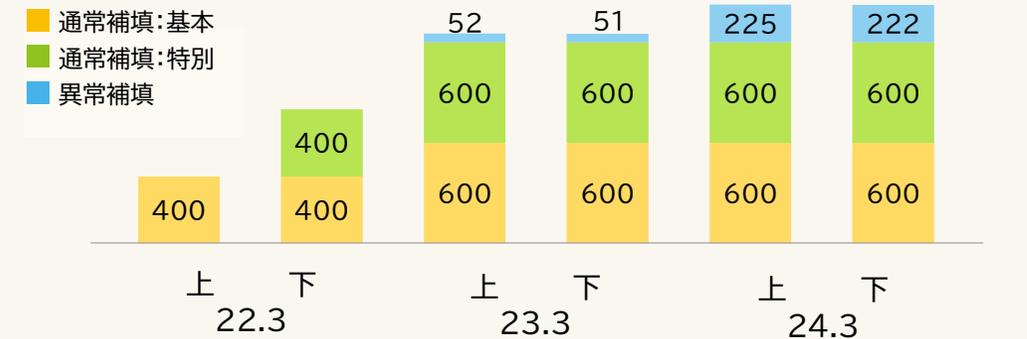
【参考】配合飼料価格安定制度

- ▶ 輸入原料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和する目的
- ▶ 異常補填金発動で23.3期から異常補填積立金が発生。また同期に大幅な輸入原料価格の上昇により異常補填金が増加し、積立金の単価が増額

制度の仕組み(金額:2024.3期下期)



積立金推移(配合飼料メーカー)



セグメント別業績

各事業において増収・増益

販売数量は畜産飼料・水産飼料ともに増加

(百万円)

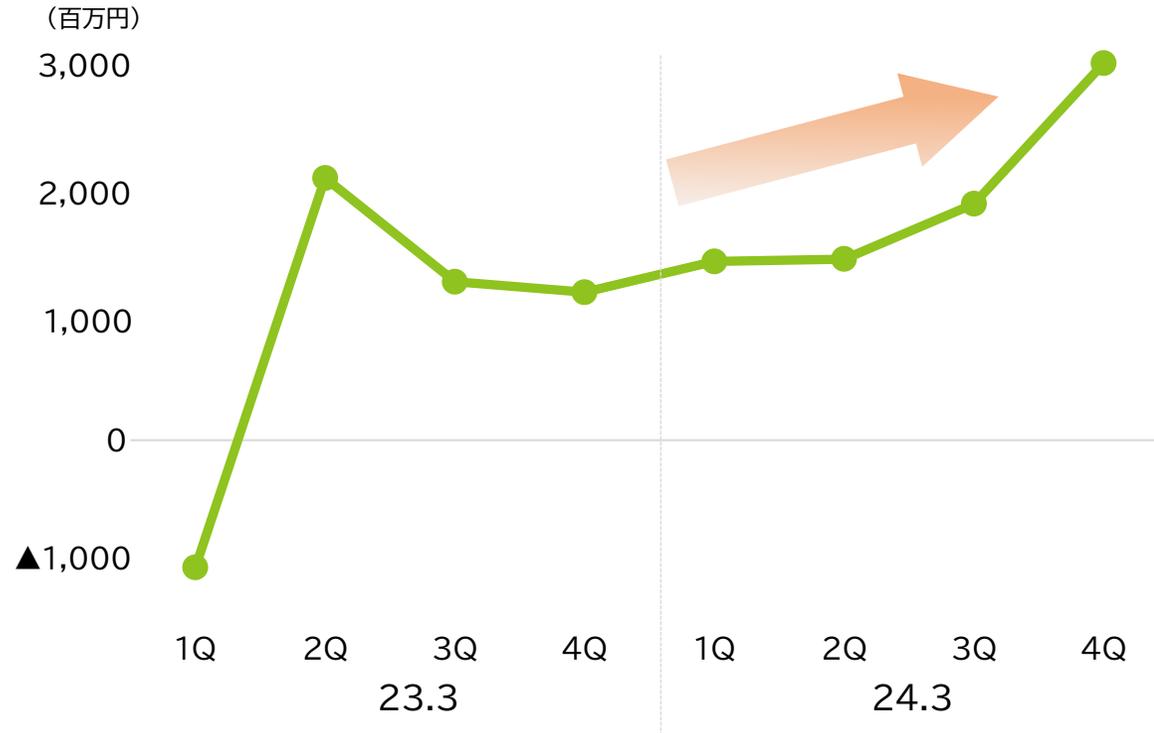
		2023.3期	2024.3期		
			増減額	前期比	
飼料事業	売上高	264,073	267,340	+3,266	+1.2%
	セグメント利益	3,925	9,380	+5,455	2.4倍
食品事業	売上高	41,334	44,105	+2,771	+6.7%
	セグメント利益	▲ 369	860	+1,230	黒字転換

※セグメント利益:営業利益

販売数量	2023.3期	2024.3期	
		前期比	内訳
畜産飼料	358.6万ト	368.1万ト	+2.7% 採卵鶏用+1%、ブロイラー用+5%、豚用+4%、牛用+1%
水産飼料	10.0万ト	11.0万ト	+9.8% 海水魚用+13%、淡水魚用▲13%

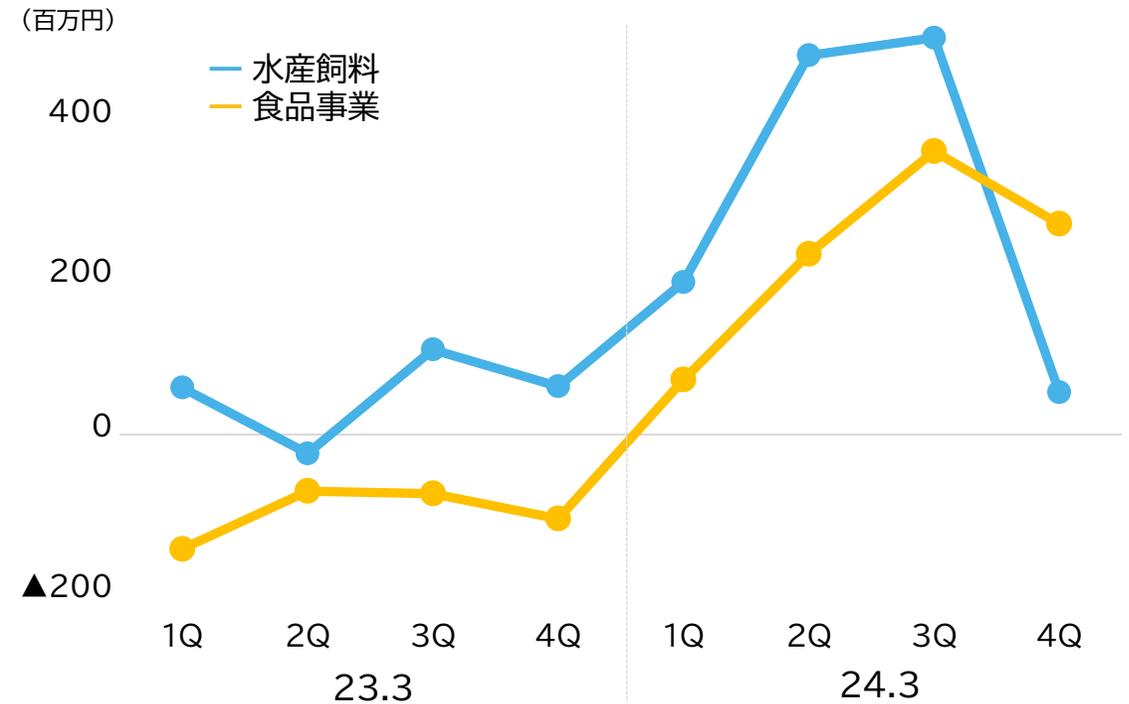
主要事業 四半期ベース業績推移

畜産飼料 営業利益 四半期推移



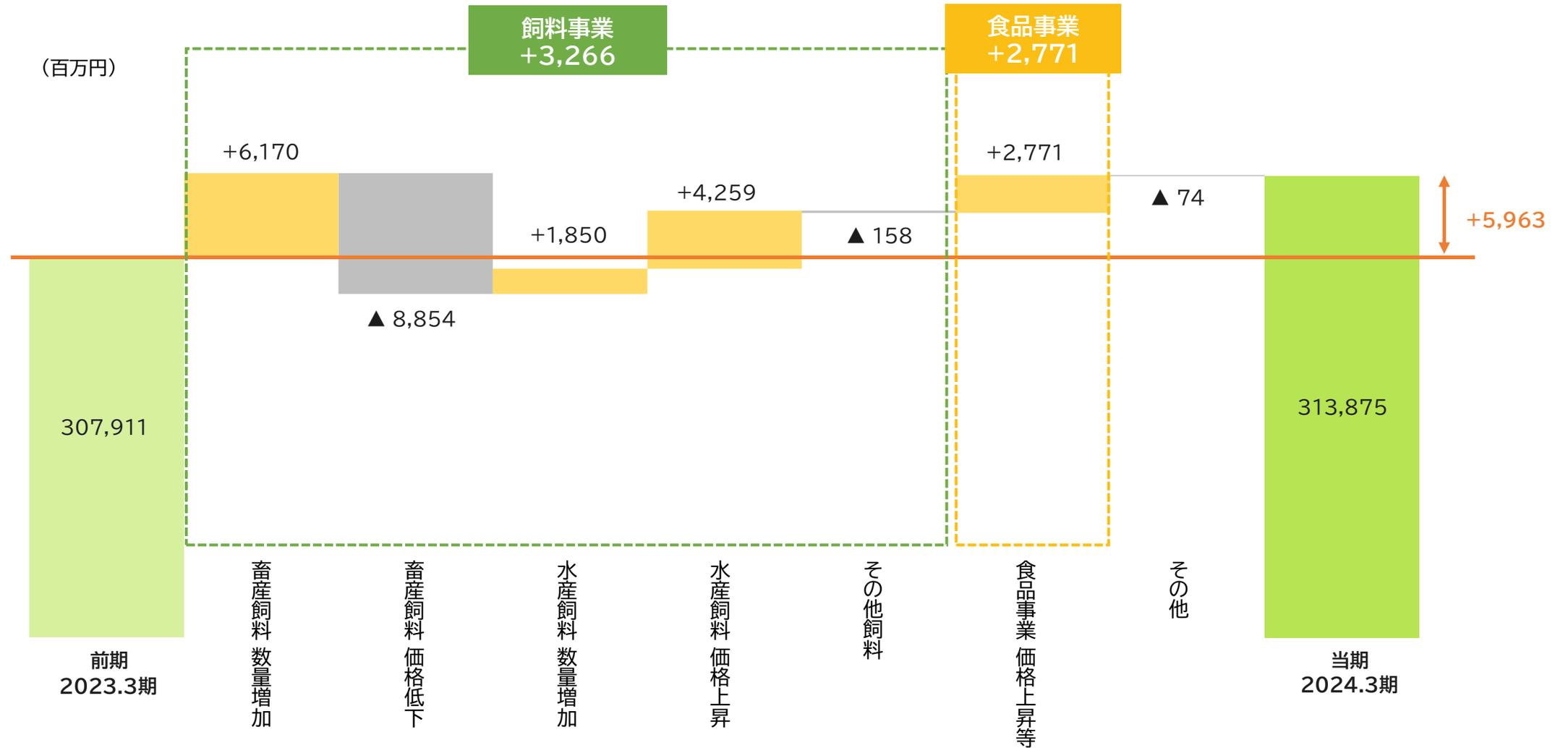
- 安定的な収益基盤のある畜産飼料は定期的な価格改定による売上総利益幅の改善に加え、コスト増の価格転嫁が進み、収益力が強化

水産飼料・食品事業 営業利益 四半期推移

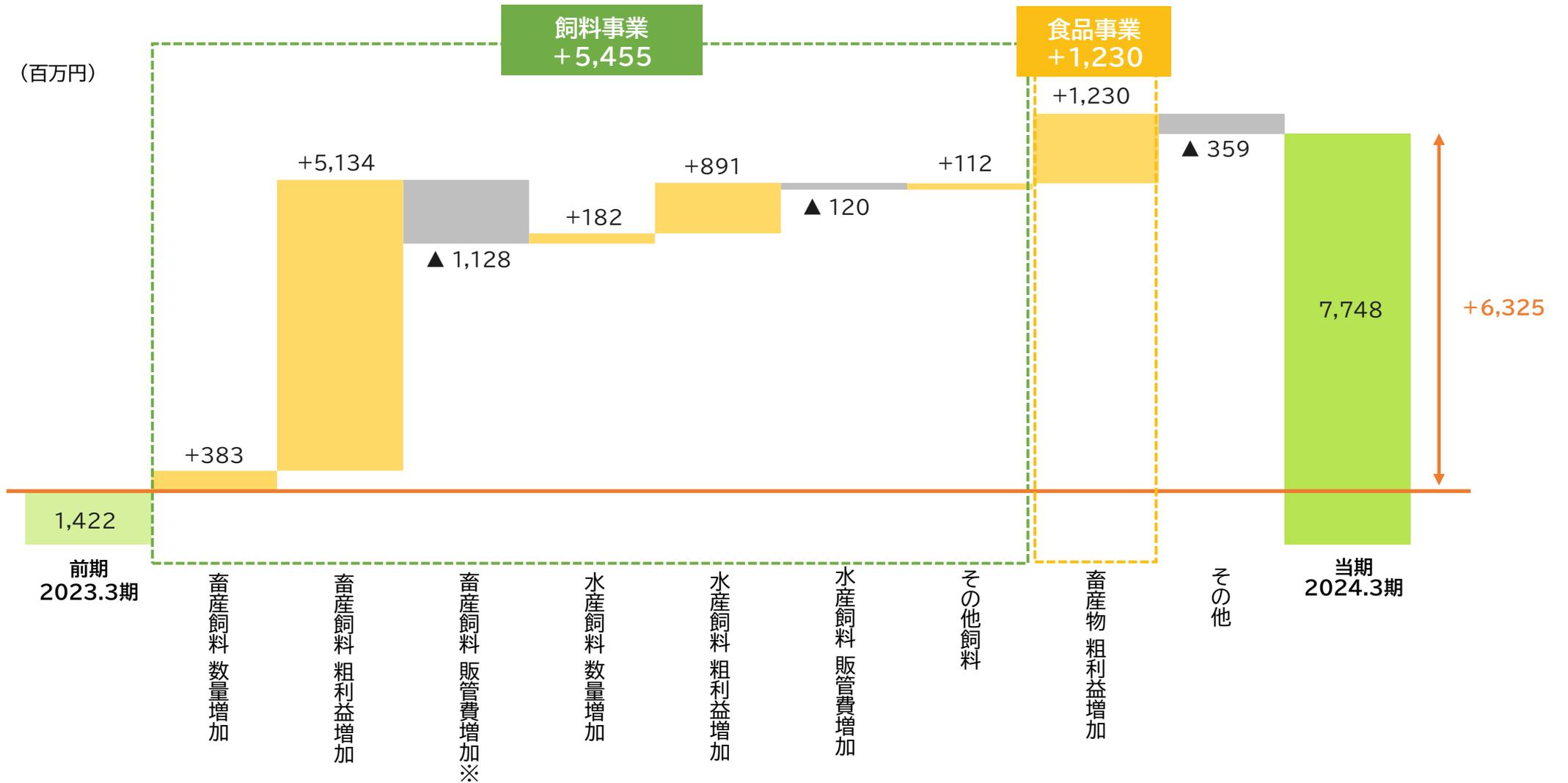


- 水産飼料は上期に実行した価格改定が浸透、4Qは原材料価格の上昇と季節要因により減益
- 食品事業は販売条件の見直しおよび下期の畜産物相場下落により、収益が改善

売上高 増減要因



営業利益 増減要因



※ 配合飼料価格安定制度の積立金増加▲721百万円

2024年3月期 連結財務状況

連結貸借対照表

(億円)

()内の数値は2023年3月末差

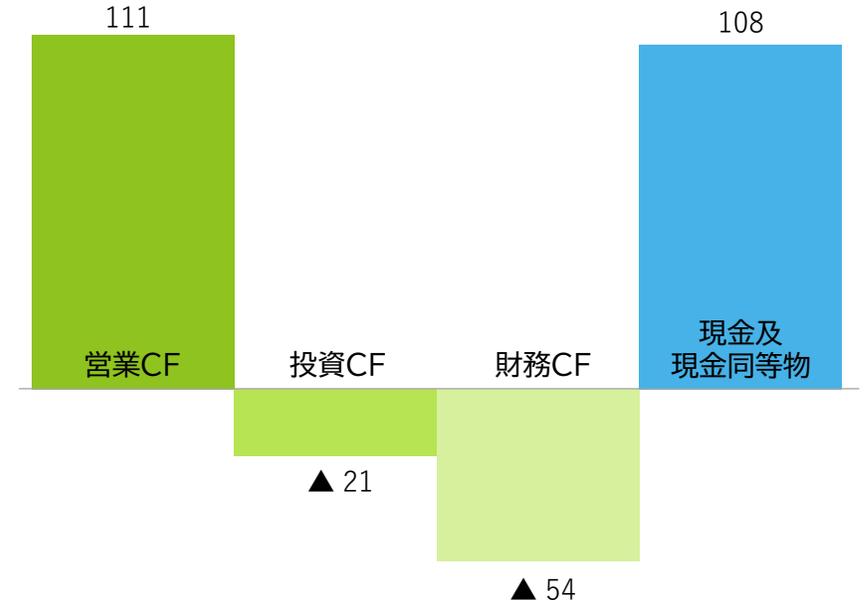
<p>流動資産 882 (+23)</p> <p>現金及び預金 108 (+34) 受取手形及び売掛金 569 (+17) 棚卸資産 173 (▲32)</p>	<p>流動負債 551 (▲49)</p> <p>支払手形及び買掛金 343 (▲21) 短期借入金 105 (▲62)</p>
<p>固定資産 428(+7)</p> <p>有形固定資産 301(▲14) 投資その他の資産 111(+16)</p>	<p>固定負債 250 (+25)</p> <p>長期借入金 211(+19)</p>
<p>純資産 508 (+55)</p>	

総資産 1,310 (+31)

※2024年3月末は休日

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)



主要因

- 営業CF：当期利益 75
- 投資CF：設備投資 ▲26
- 財務CF：借入金返済 ▲42

現金及び現金同等物：前期末増減額+34

2024年3月期 通期決算

2025年3月期 業績予想

長期ビジョン

中期経営計画

企業価値向上への取り組み



2025年3月期 業績予想

(百万円)

	2024.3期	2025.3期	
		増減額	前期比
売上高	313,875	307,000	▲6,875 ▲2.2%
売上原価	283,153	275,200	▲7,953 ▲2.8%
売上総利益	30,721	31,800	+1,079 +3.5%
販管費	22,972	25,700	+2,728 +11.9%
営業利益	7,748	6,100	▲1,648 ▲21.3%
経常利益	7,737	6,300	▲1,437 ▲18.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,084	4,500	▲584 ▲11.5%

前提条件

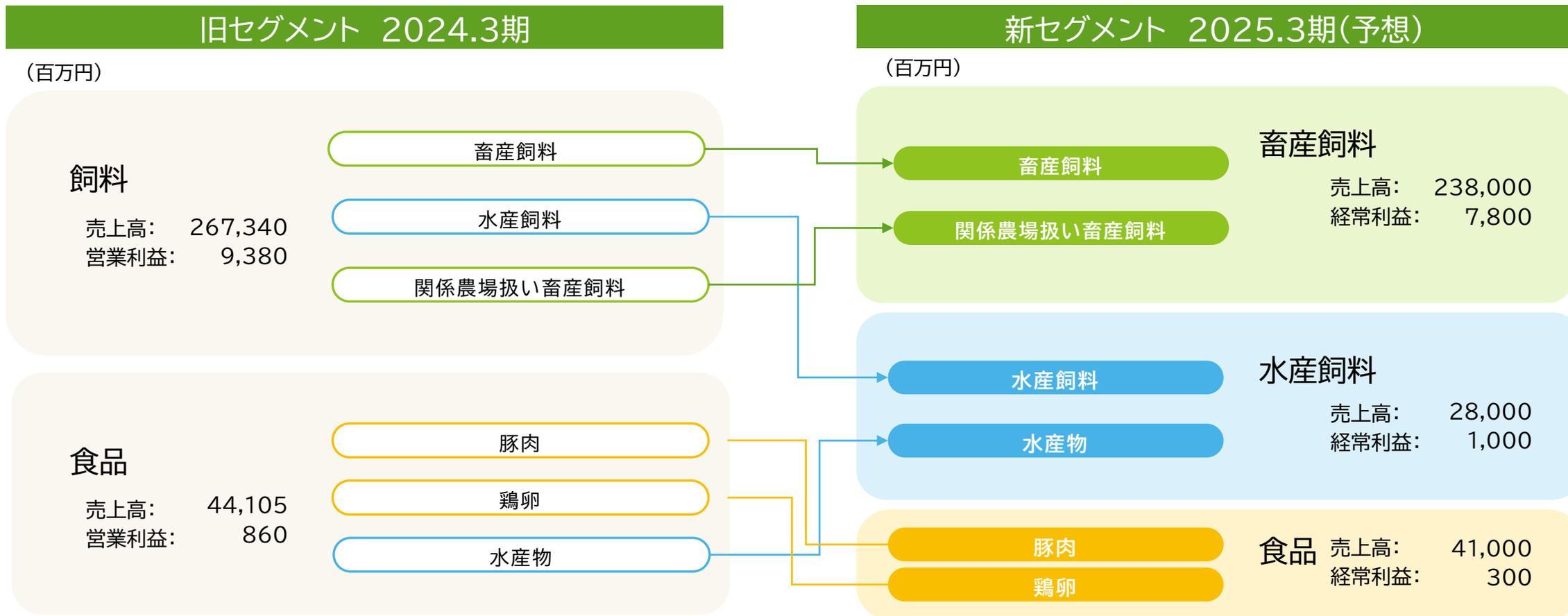
売上高・売上原価： 畜産飼料は原材料価格の低下を想定、水産飼料は原材料価格の上昇を想定

販管費： 配合飼料価格安定制度積立金は1,820円/ト(前期下期 1,422円/ト)で想定、前期より15億円程増加
運賃・人件費・減価償却費等10億円程増加

セグメントの変更

透明性の高い情報開示を目指して「報告セグメント」を変更

変更点 ・ 事業の集約基準(取扱商材→事業組織) ・ 利益基準(営業利益→経常利益)



2025年3月期 セグメント別業績予想

(百万円)

		2024.3期	2025.3期	
			増減額	前期比
畜産飼料	売上高	247,055	238,000	▲9,055 ▲3.7%
	セグメント利益	9,056	7,800	▲1,256 ▲13.9%
水産飼料	売上高	26,779	28,000	+1,221 +4.6%
	セグメント利益	921	1,000	+79 +8.6%
食品	売上高	40,031	41,000	+969 +2.4%
	セグメント利益	681	300	▲381 ▲56.0%

※セグメント利益:経常利益

※2024.3期の水産飼料のセグメント利益には、関連会社である極洋フィードワンマリンの清算損を含んでおります。

販売数量	2024.3期	2025.3期		
		前期比	コメント	
畜産飼料	368.1万ト	370.4万ト	+0.6%	採卵鶏用+2%、ブロイラー用+3%、豚用+1%、牛用▲1%
水産飼料	11.0万ト	10.8万ト	▲1.9%	海水魚用▲3%、淡水魚用+7%

2024年3月期 通期決算

2025年3月期 業績予想

長期ビジョン

中期経営計画

企業価値向上への取り組み



10年間の歩み

これまでの10年間は「統合による事業基盤の確立」をテーマとして、
旧社からの事業ポートフォリオの最適化を図るとともに、販売数量拡大や収益の最大化に取り組んだ

2014年10月
フィード・ワン
ホールディングス(株)
誕生



2016年3月
インド水産飼料
工場竣工



2017年4月
北九州水産工場
竣工



2018年7月
フィード・ワンフーズ(株)設立
(食肉事業会社統合)



2020年4月
マジックパール(株)設立
(加工卵事業子会社統合)



2020年7月
北九州畜産工場
竣工

第1次中期経営計画 (2016.3-2018.3期)

中計テーマ
事業最適再配分による収益の最大化

- 経営指標 期間中平均値
- 経常利益 43億円
 - EBITDA 66億円
 - 販売数量 338万ト

第2次中期経営計画 (2019.3-2021.3期)

中計テーマ
事業ポートフォリオの最適化

- 経営指標 期間中平均値
- 経常利益 54億円
 - EBITDA 82億円
 - 販売数量 354万ト

第3次中期経営計画 (2022.3-2024.3期)

中計テーマ
経営統合の総仕上げ

- 経営指標 期間中平均値
- 経常利益 48億円
 - EBITDA 82億円
 - 販売数量 369万ト

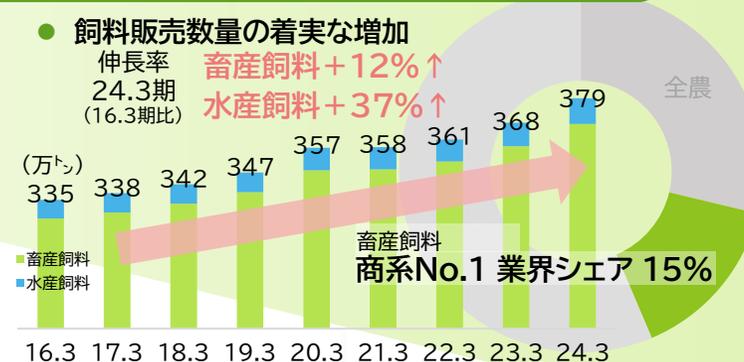
日本配合飼料(株)
1929年～

協同飼料(株)
1953年～

2015年10月
フィード・ワン(株)
誕生
(完全統合)

10年間で実現したこと

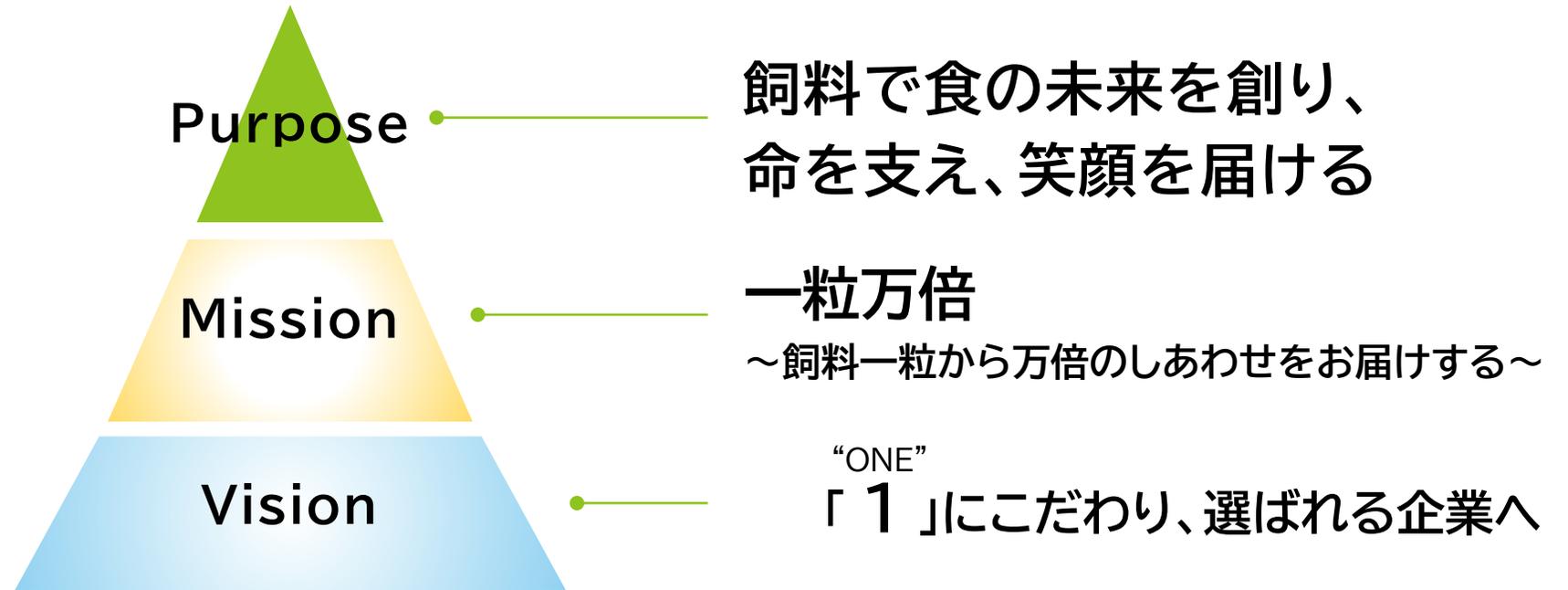
- **グループ会社の選択と集中**
2016.3期 28社→2024.3期20社
※食品連結子会社14社→7社
- **財務体質強化**
自己資本比率
2016.3期32.6%→2024.3期38.4%
DELシオ
2016.3期1.02倍→2024.3期0.63倍
- **配当強化**
年間配当
2016.3期20円→2024.3期27円
- **研究開発体制強化**
国内4か所の研究所をベースに、国内大学・研究機関に加え、穀物メジャーの研究機関やアメリカの大学等とも提携し海外技術を積極導入
- **営業体制強化**
畜産飼料事業の事業部制導入
ビッグデータ活用ゲノム解析によるトータルコンサルティングサービス導入
- **飼料販売数量の着実な増加**
伸長率 畜産飼料+12%↑
24.3期 水産飼料+37%↑
(16.3期比)



→この10年間で飼料業界のリーディングカンパニーに成長

経営方針の刷新

激変する社会環境に対応して持続的成長を実現するためパーパスの新設と経営理念を刷新
次の10年間は、過去からの延長ではなく、第2フェーズと位置付ける



第1フェーズ
2016.3-2024.3期

第2フェーズ
2025.3-2034.3期

Next
Phase

1st ステージ
25.3-27.3

2nd ステージ
28.3-30.3

3rd ステージ
31.3-33.3

長期ビジョン

飼料業界は国産畜産物・水産物の安定供給を支えるインフラ事業であり、食品リサイクルの重要な役割を果たす

当社は飼料業界のリーディングカンパニーとして、その役割を果たすために、生産体制を刷新・増強する

第3次中期経営計画 2022.3-2024.3期

飼料業界における
リーディングカンパニーへ

経営指標 期間中平均値

EBITDA	82億円
ROE	7.2%
ROIC	4.7%
市場シェア※	15%
※畜産飼料事業	

第2フェーズ 2025.3-2034.3期

継続的収益力強化と
生産体制の刷新・増強

1st ステージ
25.3-27.3

2nd ステージ
28.3-30.3

3rd ステージ
31.3-33.3

第2フェーズ総投資額 約800億円 大規模投資の実現

2ndステージ までに600億円程度を実行

投資計画

製造設備	生産体制の刷新・増強、CO ₂ 削減に向けた取り組み
人的資本	人材育成や従業員エンゲージメント向上のための投資
畜水産DX	DX推進による畜水産生産性向上、営業体制強化
R&D	環境配慮型飼料(メタンガス排出量低減、魚粉使用量低減飼料)の開発
海外	海外の先端技術の国内導入、海外ビジネスの拡大

2034.3期

Visionの実現

“ONE”
「1」にこだわり、
選ばれる企業へ

経営指標

EBITDA	160億円以上
ROE	10%以上
ROIC	8%以上
市場シェア※	20%以上

※畜産飼料事業

長期ビジョン設定背景①

主力事業である畜産飼料事業の強みと課題

強み

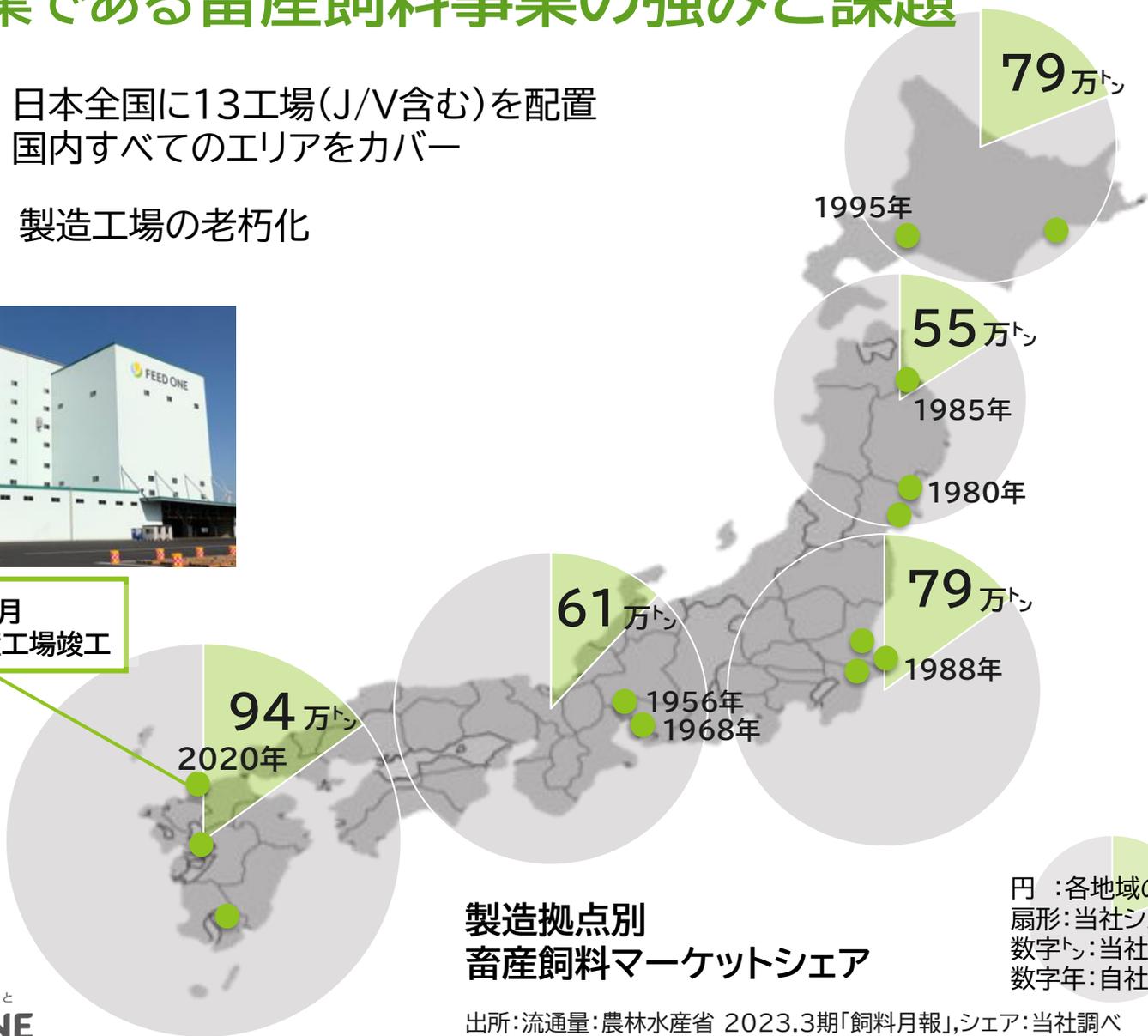
日本全国に13工場(J/V含む)を配置
国内すべてのエリアをカバー

課題

製造工場の老朽化



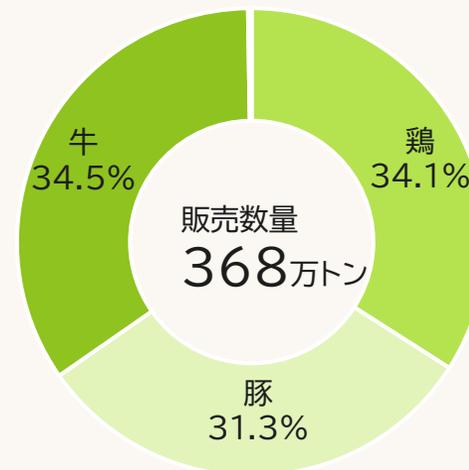
2020年7月
北九州畜産工場竣工



製造拠点別
畜産飼料マーケットシェア

円 : 各地域のマーケットの大きさ
扇形: 当社シェア
数字ト: 当社の販売数量
数字年: 自社・完全子会社工場竣工年

当社の畜種別販売構成比(2024.3期)



畜種(鶏・豚・牛)の販売比率の平均化により
収益のバランスが保たれ、近年流行する家畜
伝染病に対しても、リスクヘッジとなる

長期ビジョン設定背景②

設備投資事例 2020年7月竣工から3年半経過 北九州畜産工場 稼働状況

新工場の取り組み

IoT

システムのフレキシビリティ：タブレット端末で工場を制御。設備不具合時も早期の復旧が可能に

省エネ

最新設備とシステムを連動：工程別に電力量・蒸気量を管理し、エネルギー効率が改善

効率化

24時間無人自動出荷設備導入・作業エリア集約で作業効率UP



旧工場比較(2020.3/2024.3期)

製造数量

23%
増

エネルギー効率

15%
改善

原油換算原単位

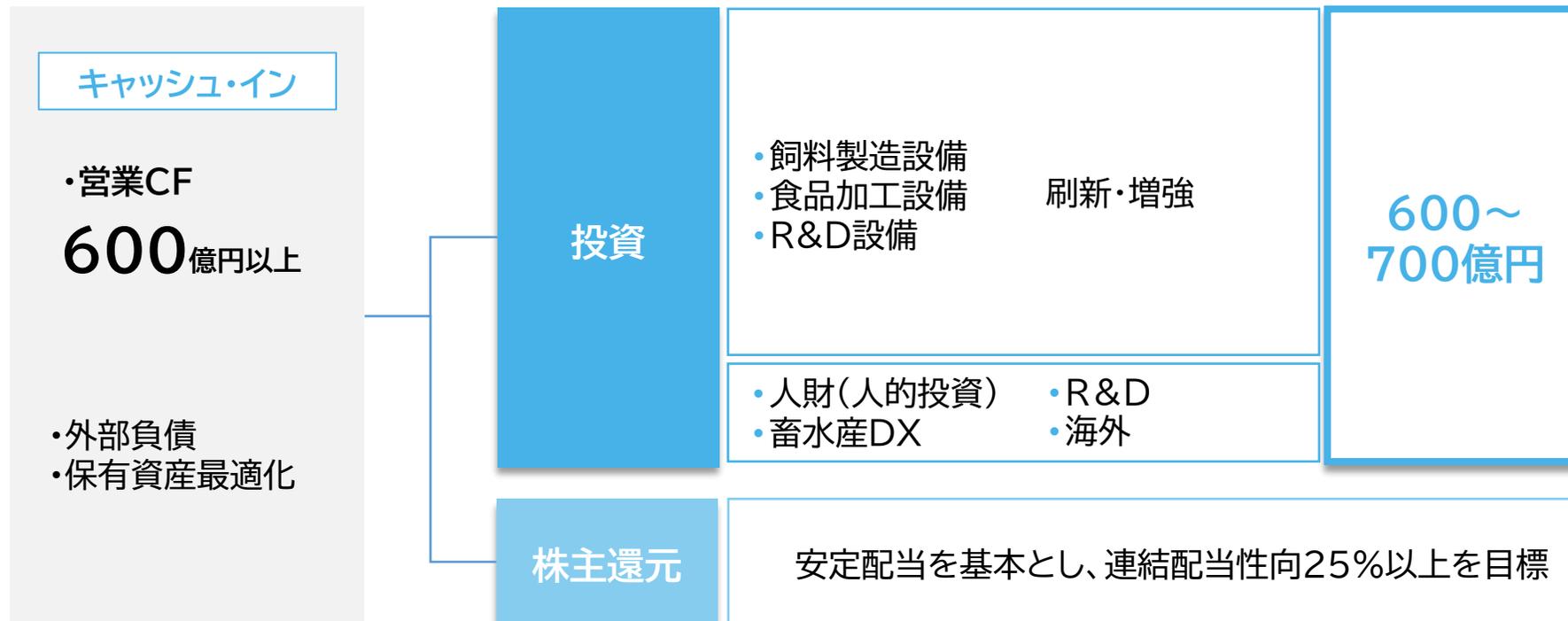
労働生産性

30%
改善

協会社従業員含む

キャッシュアロケーション

第2フェーズ1stステージから2ndステージの6年間で生み出した資金等を株主還元、設備・成長投資に充当



BSマネジメント方針

- ・必要な資金は営業キャッシュフローに加え、DER等財務規律を保ちながら有利子負債により調達する
- ・保有資産の最適化により、資産効率を向上させる

配当方針

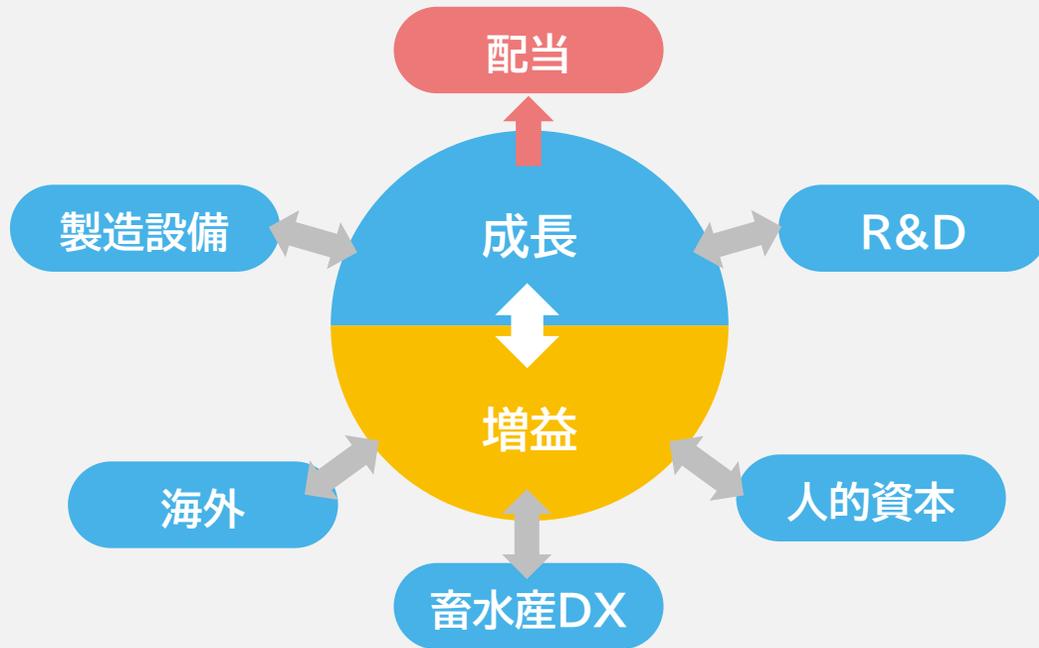
投資が大幅に増加する環境においても、安定した配当の継続と段階的な増配を目指す

基本方針

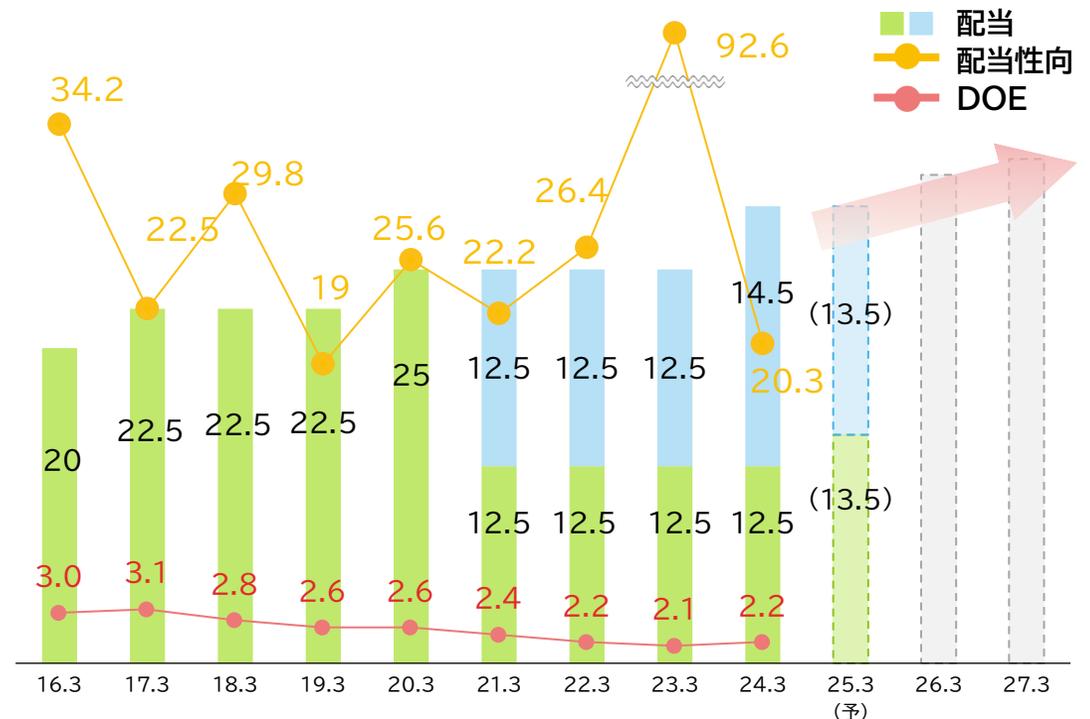
安定配当を基本とし、連結配当性向25%以上を目標

内部留保資金は、将来にわたり競争力を維持・成長させる

ための投資資金として有効に活用



■ 配当 (円, %)



※2020年10月付で実施した株式併合(5→1株)を加味し、遡及換算

Copyright © FEED ONE CO., LTD. All rights reserved.

サステナビリティ経営の推進

非財務面への積極的な投資・取り組み強化により、企業価値の向上を目指す

項目	取り組み内容
①人的資本経営の強化	企業成長の源泉は人財:従業員エンゲージメントの向上に向けた取り組み
②社会的責任の遂行	人権・環境(地球温暖化等)・資源保護・地域貢献等の活動を積極的に展開
③IR活動の強化/ブランド価値向上	経営トップによる投資家との対話、開示資料の充実、英文開示の拡大、PR活動
④コーポレート・ガバナンスの更なる高度化	取締役会における中長期的課題解決に向けた議論および監督機能の強化(監査等委員会設置会社への移行)

非財務KPI導入(主な取り組みを抜粋)



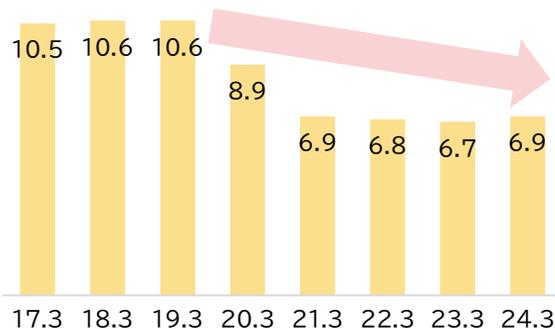
人的資本経営に関する取り組み

「企業成長の源泉は人財」 人的資本への積極的な取り組みにより、従業員との信頼関係を構築

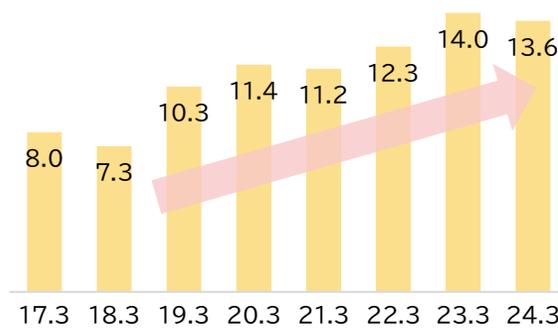
働きやすい環境の整備

- 時差出勤・在宅勤務制度の導入(2020年)
- ジョブ・リターン制度の拡充(2020年)
- 社員同士で結婚した場合に配偶者と同一エリアで働ける制度の導入(2022年)
- ライフイベントに伴う一定期間の転勤の免除制度の導入(2022年)
- 育児や介護向け制度の充実(2023年)
- 従業員の遺族となる配偶者の就労支援および子の支援の導入(2024年)

月間平均時間外労働時間(時間)



年間平均有給休暇取得日数(日)



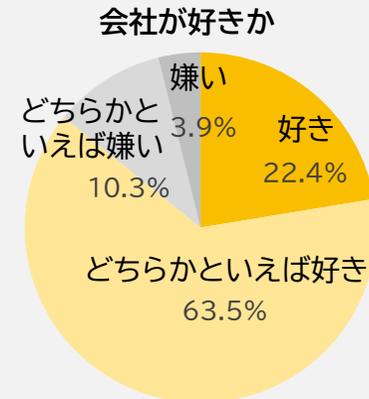
給与引上げ(ベースアップ+定期昇給)

- 2023年度と2024年度の合計で+12%以上(非管理職)

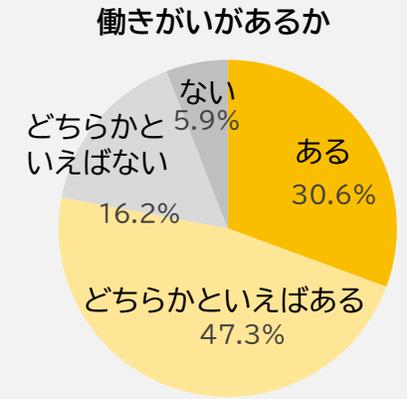
従業員持株会における奨励金付与率の引き上げ

- 2023年10月より10%から15%へ引き上げ

従業員エンゲージメント (2024年3月実施,受検率97%)



会社が好き・
どちらかといえば好き
85.9%



働きがいがある・
どちらかといえばある
77.9%

健康経営等の認定取得

- 健康経営優良法人2024(大規模法人部門)認定
- 横浜健康経営認証2024(2024.4.1-26.3.31)
- えるぼし認定(2つ星)取得
- かながわ治療と仕事の両立推進企業 プラチナ認定
- スポーツエールカンパニー認定



2024年3月期 通期決算

2025年3月期 業績予想

長期ビジョン

中期経営計画

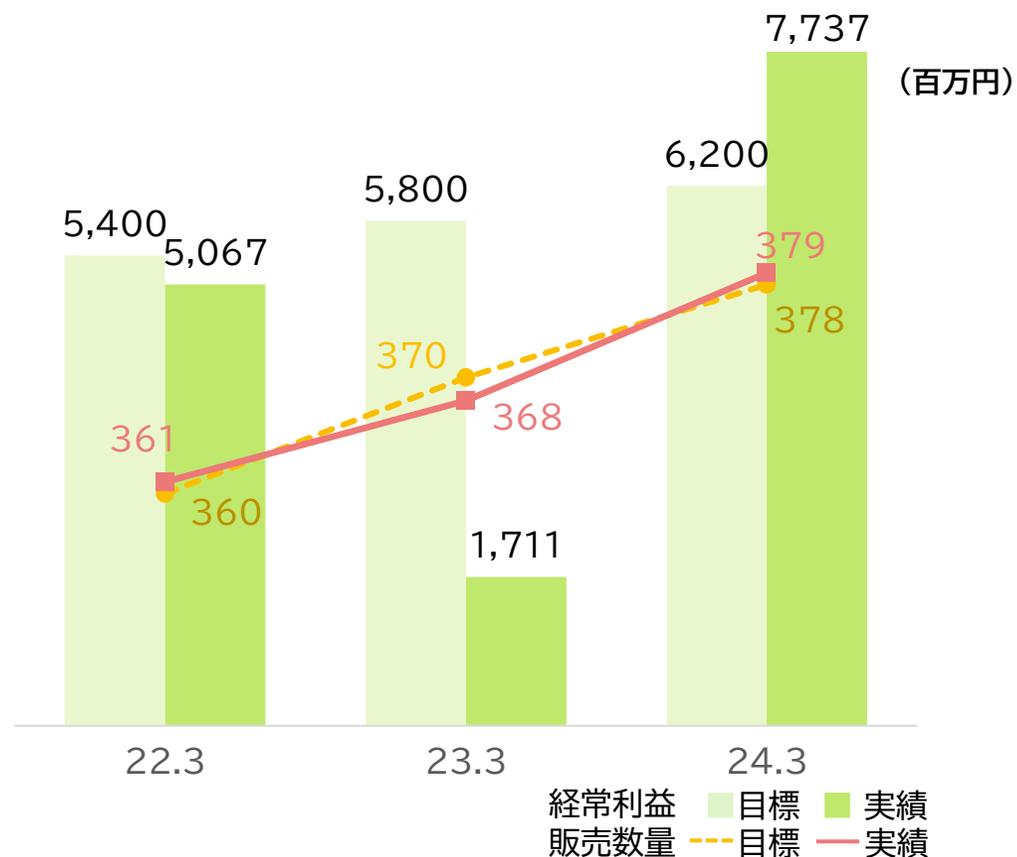
企業価値向上への取り組み



第3次中期経営計画の振り返り

経常利益は、全事業(飼料事業・食品事業)においてコスト増への対応として実施した価格転嫁・販売条件見直し等により目標達成
 販売数量は、生産者の経営に資する技術提供や製品力等により目標達成

	2024.3期			中計期間中 実績平均
	中計目標	実績	対目標比	
売上高 (百万円)	224,900	313,875	+88,975	288,329
経常利益 (百万円)	6,200	7,737	+1,537	4,838
飼料 販売数量 (万トン)	378	379	+1	369
R O E	9.0%	10.7%	+1.7%	7.2%



第2フェーズ1stステージの経営指標

経営指標を見直し、確実な設備投資の実行と資本コストを意識した経営を実現する

	第3次中期経営計画 期間中平均値	2027.3期 目標
E B I T D A	82億円	115億円
R O E	7.2%	8%以上
R O I C	4.7%	6%以上
販 売 数 量	369万トン	390万トン
総 投 資 額	74億円 (22.3-24.3)	600億円 1・2ステージ投資額累計 (25.3-30.3)

当社が想定する株主資本コスト **8%*** WACC **6%***

※当社の想定する資本コストは類似上場会社のβ値・DELシオを考慮に加えたCAPMベースの計算式で算定しております。

(参考)	第3次中期経営計画 期間中平均値	2027.3期 目標
売 上 高	2,883億円	3,272億円
経 常 利 益	48億円	70億円

経営指標の見直し

販売数量

EBITDA

販売数量

経常利益

ROIC

ROE

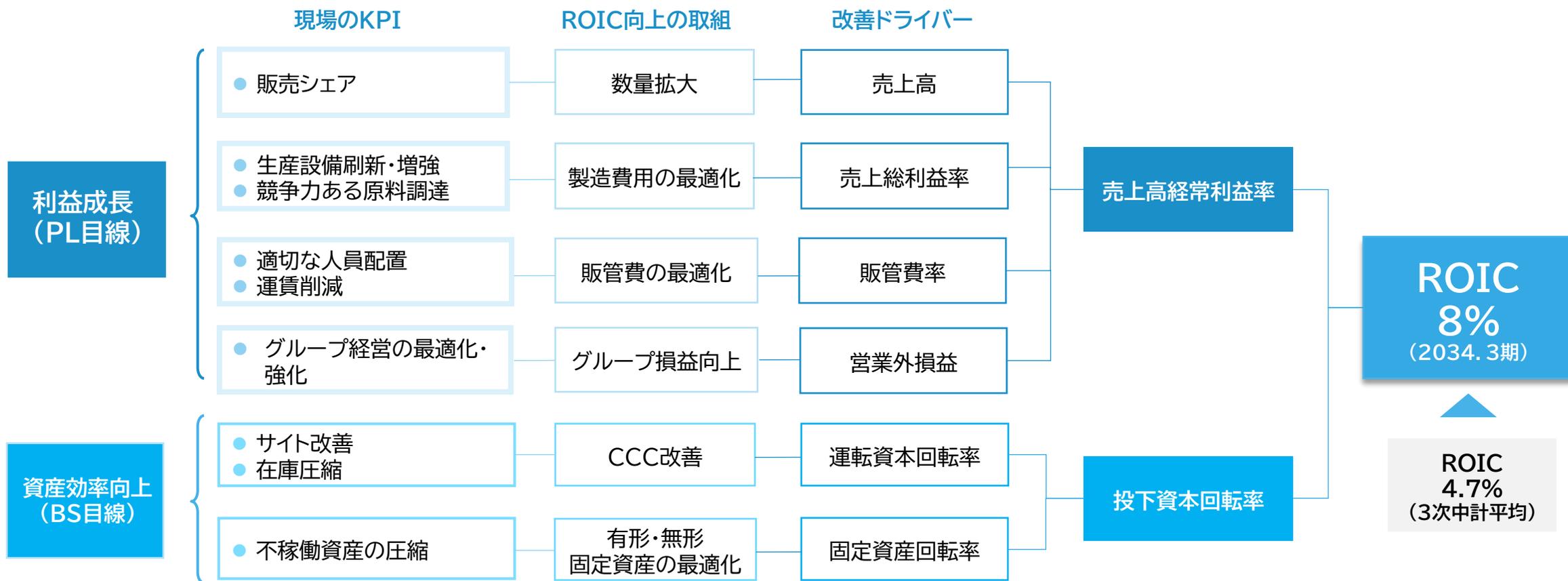
ROE

総投資額

ROICツリー

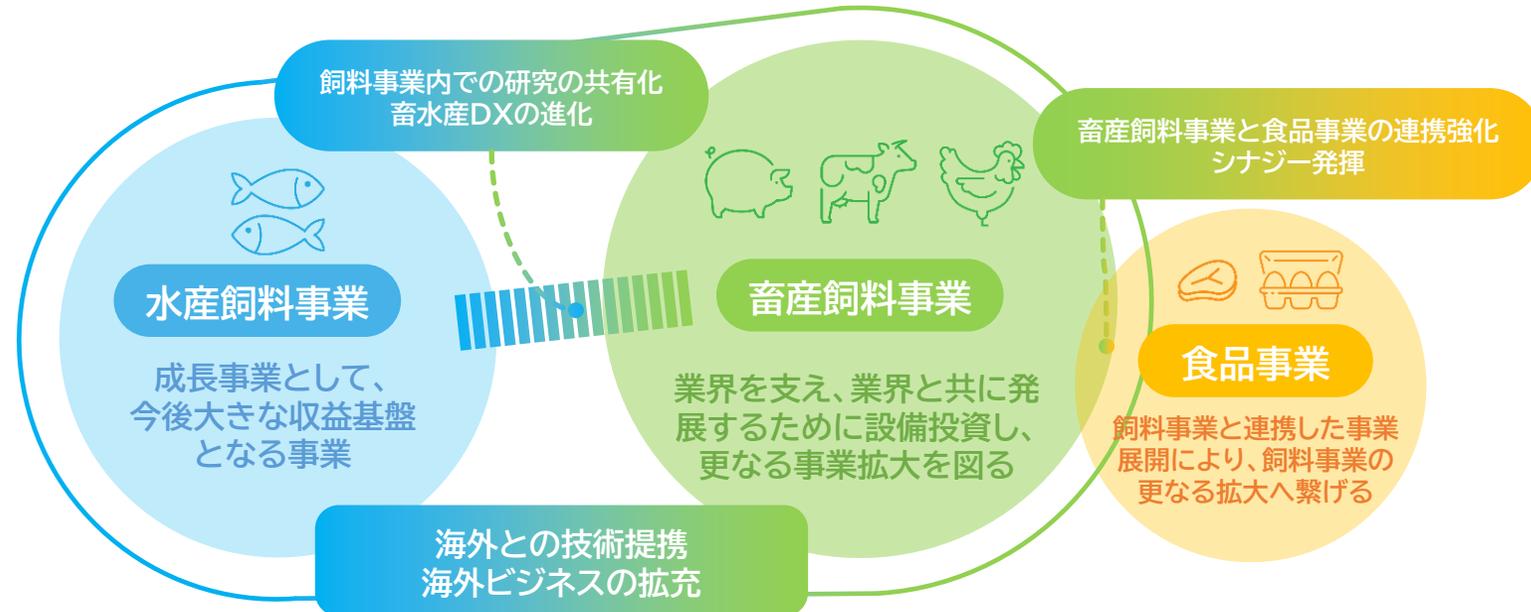
新たな経営指標としてROICを設定、事業別にROICを管理し、資本効率の改善を図る

WACCを上回るROICの維持・向上に繋がる事業戦略および資本政策の実行により持続的な企業価値向上を目指す



第2フェーズ1stステージの事業方針

畜産飼料事業を中心とした事業間の連携を強化し、継続的な収益力強化を図る



当社の強みである『海外展開』引き続き技術導入により畜水産業界の発展に寄与するとともに日本の技術を活かし、ベトナム・インド等海外ビジネスの拡充を図る



事業方針① 畜産飼料事業

製品と技術で畜産現場における価値を創造する

部門間の連携強化により好循環をつくり出し、
製品と技術で畜産現場における価値を創造する

1 営業体制強化:販売力と効率の最大化

- 営業(8支店):現場からの顧客ニーズの吸上げ
- 本店(畜産飼料部):海外提携先からの先進技術の導入・応用
- 研究所:顧客ニーズと技術を組合わせた新製品・技術の開発
- CRM/SFA導入による営業効率化



2 新製品・技術戦略

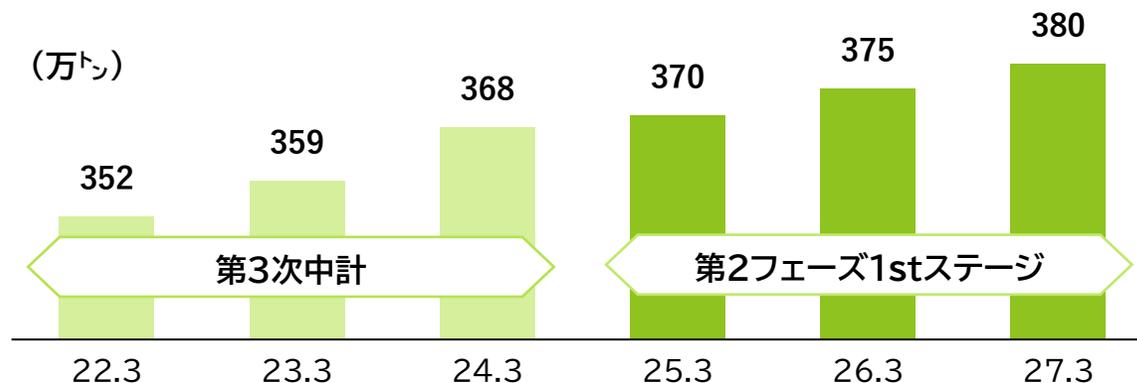
:明確なコンセプトで現場の価値向上へ

- 家畜の能力向上や遺伝特性への対応型
- 暑熱対策など顧客の課題解決型
- 牛のメタン低減飼料など環境対応型
- アニマルウェルフェア対応型 等



3 生産体制の刷新・増強と研究設備の強化

販売数量 目標



事業方針② 水産飼料事業

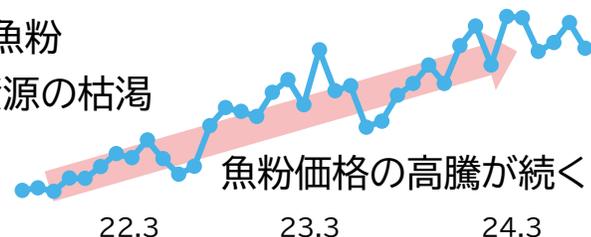
次世代養殖への挑戦と営業体制強化 ～魚粉依存からの脱却とコンサルティングサービスの深化～

事業環境

水産用配合飼料の主原料は魚粉

→天然の海洋資源の枯渇

魚粉に依存しない
養殖技術の開発は必須



次世代養殖への挑戦と営業体制強化

1 営業体制の強化:

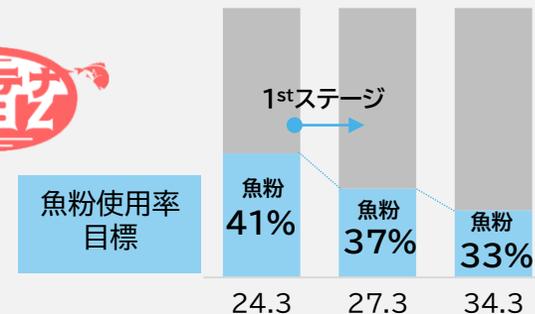
技術・水産物販売担当の営業現場配置

- 顧客ニーズへの迅速な対応から販売量増加と現場価値向上を狙う
- 現場のスタッフの相互能力開発による営業力底上げ



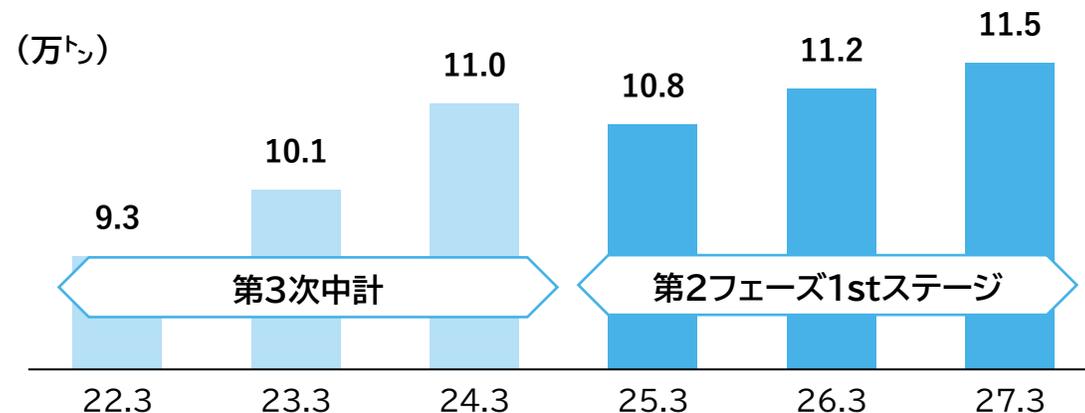
2 次世代養殖へのアプローチ

- 無魚粉・低魚粉飼料の開発普及
- 補償成長技術の確立
- 海外技術導入の推進



3 生産体制の刷新・増強

販売数量 目標



事業方針③ 食品事業

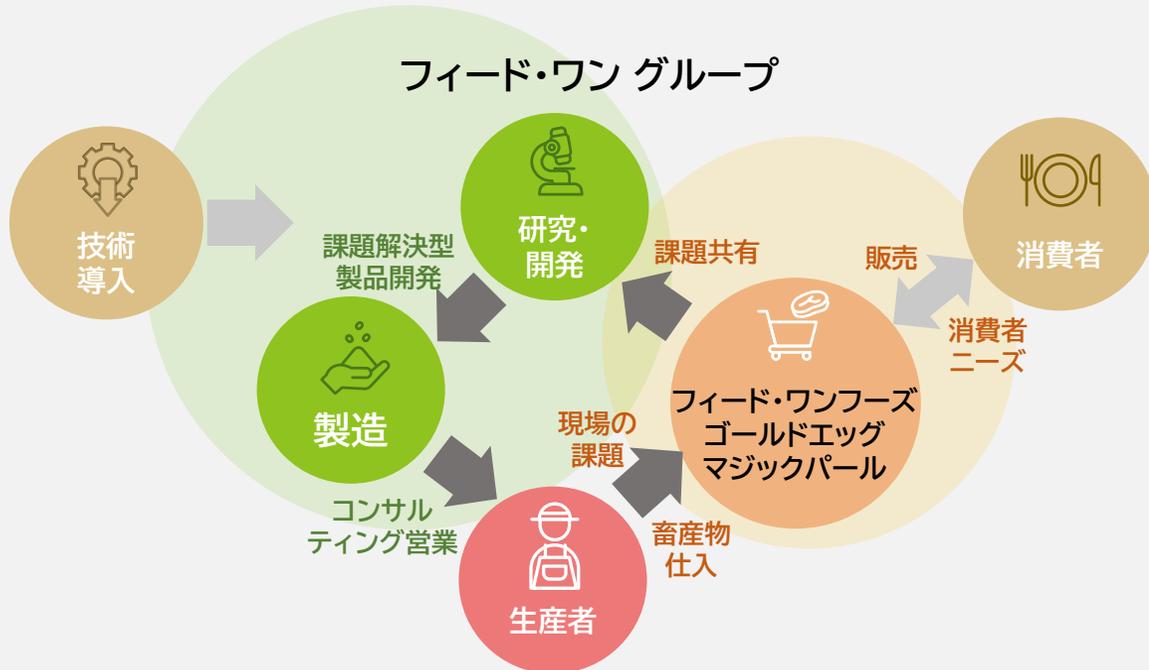
畜産飼料事業とのシナジー発揮

畜産物仕入販売を通じて、生産者の課題や消費者ニーズを飼料製品開発等に繋げるフィード・ワングループによる好循環のモデルを構築

1 畜産物と飼料の連携によるビジネスモデルの構築

食品事業の位置づけ

- 生産者利益の最大化
- 飼料販売へのシナジー発揮



2 生産体制の刷新・増強

投資計画

- 既存設備の建替え・改修・更新

1stステージ 2025.3-27.3

2ndステージ 2028.3-30.3



マジックパール(株)

- 増産のための新工場 着工済
2025年3月期中 稼働予定
建て替え後
生産能力**150%**へ



味付ゆでたまご

2024年3月期 通期決算

2025年3月期 業績予想

長期ビジョン

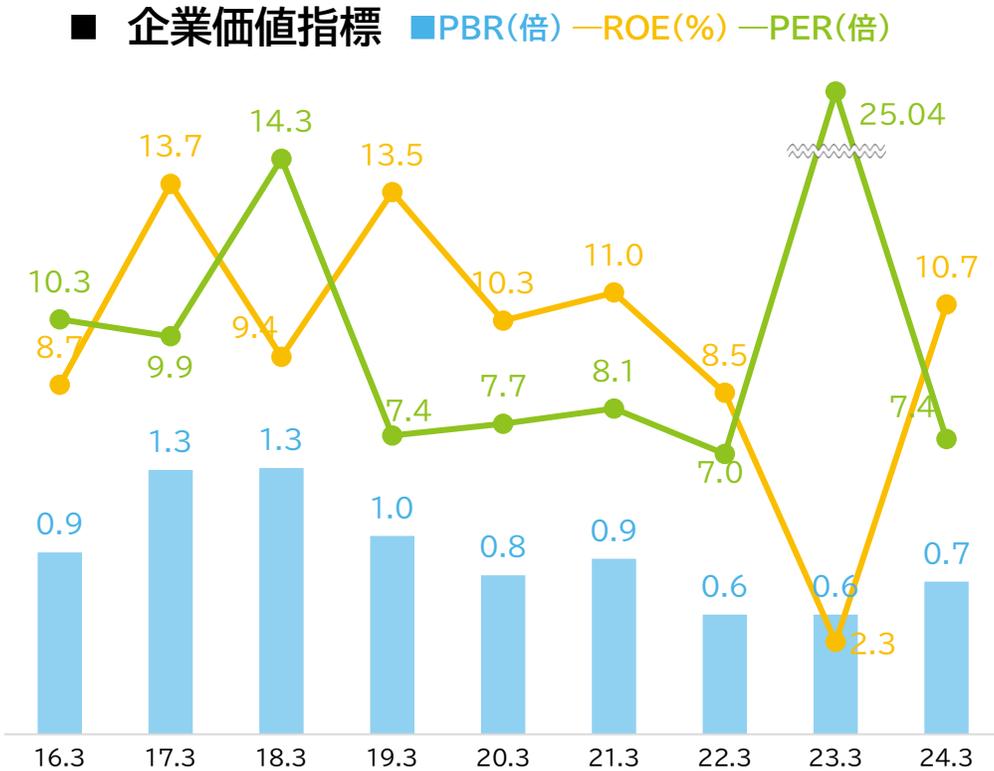
中期経営計画

企業価値向上への取り組み

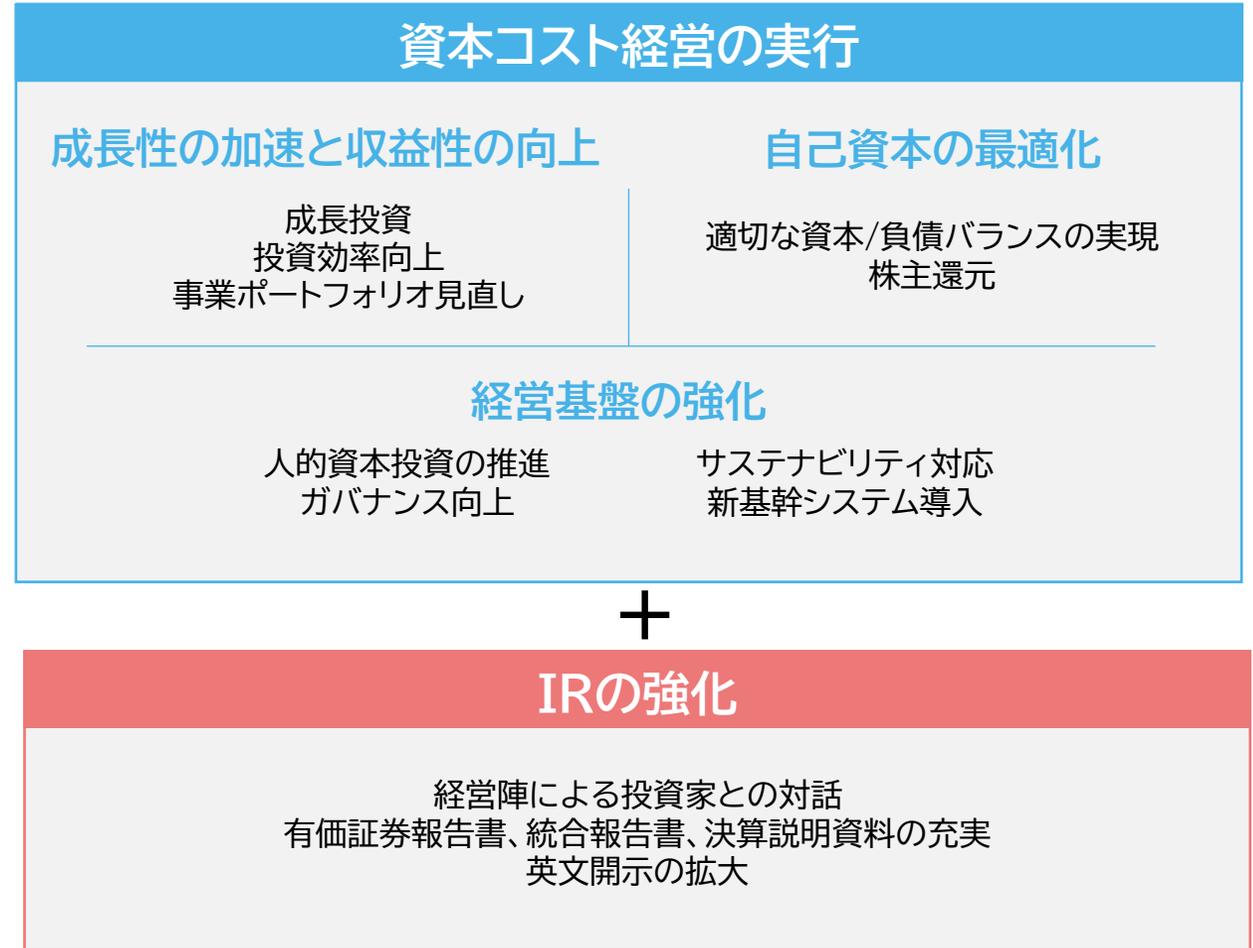


企業価値向上の取り組み PBRの更なる改善を目指して

ROEは10%程度を維持、PBRは直近では改善傾向だが1倍を割れている
 資本コスト経営の実行に加えて、IRの強化により持続的な企業価値向上を目指す



【参考】当社が想定する株主資本コスト8%



本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。



当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛 (ir@feed-one.co.jp)にご連絡ください。